



**産学官連携**  
JR井野駅の橋上化  
高橋美奈雄  
(市民クラブ)

**質問** 企業や大学との連携強化が重要課題であるが、今後の産学官連携の見解は。

**答弁** 本市では、高崎経済大学など各大学の特色を生かしたマーケティングや地域貢献への連携支援を行ってきた。今後も、高崎シテイプロモーションやビジネス立地奨励金制度などの効果により、多種多様な企業の市内進出が予測される。より実効性のある産学官連携の構築を目指し、地域経済の活性化とより良いまちづくりに向け連携強化に努

めたい。

**質問** JR井野駅の周辺環境整備等の地元要望や地域交通の拠点として、駅の橋上化などバリアフリー対策も考慮した具体的な施策展開の考えは。

**答弁** 当駅は、上越線、吾妻線、両毛線が乗り入れ1日当たり約4200人の乗降客がある。バリアフリー新法の対象として位置付けられており、JR東日本や国、県などの関係機関と前向きに協議を進めていく。



**市内循環バスぐるりん**  
アリーナシャトルバス  
中島輝男  
(市民クラブ)

**質問** アリーナシャトルバスのこれまでの利用実績は。また、平日の利用がほとんどないとの声があるが、ダイヤの見直しや臨時便で対応する考えは。

**答弁** 利用者は平日約57人、土日、祝日で約185人である。シャトルバスは常時運行することで、さまざまなイベントを誘致するため

の強みになっている。平日の利用も徐々に増え、地域公共交通会議でも現行の便数を維持していくことで意見がまとまったことから、経路や便数の変更は予定していない。

**質問** ぐるりんの運行に關し、安全面への意見があった場合の対応は。

**答弁** ぐるりんを運行して



降車中のぐるりん

いる事業者は、日々の運行から交通状況の変化などの情報を内部で共有し、必要に応じて市に報告している。その上で、当初の運行計画

**子どもの肥満対策**  
費用対効果の高い保健事業  
丸山 覚  
(公明党)

**質問** 生活習慣病の原因にもなる肥満が子どもにも見られるが、子どもを対象にした健診を新設する考えは。

**答弁** 本市では、18歳以下を対象とした生活習慣病予防の健診は実施していないが、小・中学生を対象に実施している自治体もある。今後、このような事例を調査研究していきたい。

**質問** 本市では、生活習慣病の重症化を予防するため

の変更が必要な場合は、市と事業者で協議し、経路の見直しやダイヤ変更等の改善をしている。



**食物アレルギー対策**  
消防団員の処遇改善  
追川 徳信  
(新風会)

**質問** 学校における食物アレルギー対策は。

**答弁** 食物アレルギーは児童・生徒の命に関わる問題である。各学校ではアレルギーへの対応や処置に関する校内研修会や緊急時に、アナフィラキシー症状を緩和するエビペンの正しい使用法の講習会を行い、全職員が適切に対応できるよう共通理解を図っている。

**質問** 本市消防団員の処遇改善への取り組みは。

**答弁** 団員の報酬は、国の報酬基準を上回る基準額を

用した重症化予防対策を実施している。医療機関での治療が必要な人のスクリーニングを行い、医療機関で重症度に応じて再検査や治療、専門医への紹介を行っている。慢性腎臓病は、自覚症状が現れにくい。ため、健診結果に基づく適切な治療や生活習慣の改善が必要である。引き続き医療機関と連携して、重症化予防に取り組みでいきたい。



**質問** 団員の報酬は、国の報酬基準を上回る基準額を

今後、あらゆる面から消防団の充実強化を図り、団員の確保に努めていく。



**人口増加の群馬地域での諸施策**  
木村純章  
(市民クラブ)

**質問** 群馬地域での児童・生徒数の状況は。

**答弁** 群馬地域では、平成24年度と比較し、群馬南中で46人、金古南小で82人、国府小で67人の児童・生徒が増加している。今後、群馬南中では、これまで以上の増加が見込まれるため、教室が不足する場合には、まず特別教室を普通教室に転用することで対応し、それでも難しい場合には、プレハブ校舎の設置も考えている。

**質問** 群馬地域の保育施設

の現状把握と今後の対応は。  
**答弁** 群馬地域の保育所入所児童数は、合併時の670人から現在1000人超となっている。保育施設の受け入れ枠の拡大に向け対応してきたが、居住人口の継続的な増加により、平成30年度に新たな保育所が認定こども園を整備する予定で、現行の施設整備補助に加え、用地購入補助も創設した。今後も地域内の人口動向やニーズを踏まえ、適切な対応をしていきたい。



**交通安全指導員の現状**  
本市のホームレスの現状  
時田裕之  
(新風会)

**質問** 交通安全指導員の定員と充足率は。また、指導員のいない小学校区への対応は。

**答弁** 定員233人のところ198人で充足率は89%である。箕郷地域は、定員17人で100%、その他の地区はいずれも不足している。また、指導員が未配置の小学校区は2校あるが、

地域の見守り隊の自主活動により安全性を確保している。交通安全指導員活動の重要性を周知し、未配置の解消に努力したい。

**質問** 本市で把握するホームレスの人数とその対策は。また、ホームレスに関する事件、事故などは。

**答弁** 本年1月時点で公園などで9人を確認し、その



教室数増加によるプレハブ校舎

**群馬地域の小学生増加への対応**  
田角悦恭  
(新風会)

**質問** 増加する群馬地域の小学校児童数における5年間の推移や空き教室数などの現状は。

**答弁** 群馬地域は、大型ショッピングモールの進出などにより人口が増え、地域の小学校児童数も増加傾向にある。平成24年度からの5年間で児童数が約400人、学級数が14学級増加している。現在、普通教室に転用できる教室は、群馬地

は把握していない。今後ホームレスが事件や事故に巻き込まれないよう関係機関と連携し、巡回などを行いたい。



**自転車のマナーの悪化**  
窓口対応について  
根岸 赴夫  
(新風会)

**質問** 自転車のながら運転事故が多発しているが、自転車のマナー指導への取り組みは。

**答弁** 本市では、小学3年生を対象とした交通安全教室の開催、中学生に対しては各学校が工夫を凝らした安全教育を行っている。高校生や一般市民は、スマートフォンやイヤホンを利用している。また、専用道路の設置など必要に応じて対応している。専属のロビーマネジャーの設置に関する考えは。



現状では市庁舎1階の総合案内で、適切な窓口への案内業務を行っている。さらに確定申告の時期などに特に窓口が混雑する場合には、案内役の職員を専属で配置するなど必要に応じて対応している。



は把握していない。今後とも児童数増加の傾向にあるが、大幅な増加はないと予想している。学級編制は1、2年生が30人、3年生以上は35人で、児童数の増加がそのまま学級数の増加とはならないため、当面は空き教室の転用で対応できる。今後も児童数の推移を注視し、大幅な教室数の増加には、プレハブ校舎での対応も考えている。

現状では市庁舎1階の総合案内で、適切な窓口への案内業務を行っている。さらに確定申告の時期などに特に窓口が混雑する場合には、案内役の職員を専属で配置するなど必要に応じて対応している。専属のロビーマネジャーの設置に関しては、有効性や必要性を今後研究していきたい。

